

【第 57 期(2026 年 6 月)定時株主総会 質疑・応答の概要】

※株主の皆様から頂戴したご質問やご意見と経営陣からの回答、説明をまとめたものでございます。

(理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております)

1.

Q	受託ビジネスの減少要因は、自然減なのか、それとも戦略的に減らしているのか。
A	自然減によるものと、当社の戦略として意図的に減らしているものの、双方の要因がございます。

2.

Q	受託ビジネスの減少を、データ連携ビジネスでどのように補っていく想定なのか。
A	データ連携ビジネスにおきましては、HULFT 等のパッケージソフトの提供だけでなく、その周辺業務（導入支援やシステム構築など）も存在します。これらは従来の受託ビジネスに近い性質を持つ領域であると捉えており、こうした案件を積極的に獲得・推進していくことで、減少分を補ってまいりたいと考えております。

3.

Q	2026 年度計画も減収見込だが、今後の業績回復見通しについてどう考えているのか。
A	現在は、当社にとって事業構造の変革期であり、将来の成長に向けた「投資フェーズ」であると位置づけております。業績の回復につきましては、早期に実現できるよう、全力で取り組んでまいります。

以上